



社会福祉法人竹清会

2075-1
24 146-00
東京で働く、
自分らしく。

女性理事長を中心に女性職員が働きやすい環境づくりを推進

「女子会」率直な意見や提案
が生まれる第2の経営会議！理事長を交えながら女性職
員による多職種での打合せ

【設 立】平成11年
 【代 表 者】理事長 矢沢 きよみ
 【正社員数】293名（女性232名 男性61名）
 【所 在 地】町田市
 【事業概要】特別養護老人ホーム等の介護事業
 （平成29年10月1日現在）

背景・経緯



- 「2025問題」の介護職員の不足問題
を見据え、平成21年から理事長を中
心に女性が働きやすく活躍できる職
場を目指して様々な改革を実施

取組内容

【「女子会」の発足】

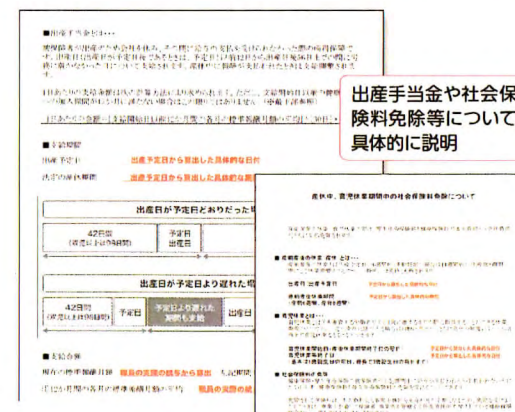
- 理事長を中心にした「女子会」を定期的に開催
休暇取得手続きや看取りケア設備の充実等、女性職員の意見や提案を
経営に反映
- 職員の「年次有給休暇を取りにくい」という声をきっかけに、平成25年
から職員の正職員化を進める

【産休・育休を取りやすい環境づくり】

- 産休・育休の諸制度や手当金について、社会保険労務士のアドバイスを
元に作成した資料を用いて具体的な期間や支給金額などを職員に説明
- 産休開始前に新たに職員を採用することで、周りの職員に業務負担が
増加しないよう配慮し、妊娠した職員をサポートする雰囲気醸成

【一人ひとりへのきめ細かい支援】

- ライフイベントや一人ひとりの生活状況・希望に合わせた配置転換を実施
- 柔軟な勤務条件を提示する等、母子家庭・ひとり親家庭の就業を支援



効果

- 職員の正職員化により夜勤対応可の職員が増えた結果、休暇取得率の向上や研修に参加し
やすい職場環境を実現
- 女性職員の出産後就業継続率の向上
 （平成26年度：0/3名 0% → 平成27年度：1/1名 100% → 平成28年度：3/3名 100%）
 ※平成29年度：3名が育休から復職。今後、2名が育休を取得予定
- 介護・看護職員の離職率が大幅に減少（平成26年：14.0% → 平成29年9月末：1%）



▲ 大賞を受賞した竹清会のメンバーたち(右から2人目が矢沢理事長)

都の女性活躍推進大賞

町田の社福「竹清会」に

町田市小山ヶ丘の社会福祉法人「竹清会」が、「都女性活躍推進大賞」の大賞(医療・福祉分野)を受賞し、同会の矢沢きよみ理事長ら4人が9日、同市役所を訪れ、石阪丈一市長に報告した。

同会は市内で特別養護老人ホームなどを運営しており、従業員288人のうち、女性が229人を占める。正職員化や産休を取りやすい環境づくりに取り組んだ結果、2014年度は14%だった介護・看護職員の離職率が、今年度は1%(昨年9月末時点)に減少した。

矢沢理事長は「人材を失いたくないという思いで力を入れてきた。女性に優しい職場として頑張っていたい」とあいさつ。石阪市長は「(離職率)1%は、常識とはかけ離れた数字」と驚いていた。

同賞は14年度に都が創設。今年度は同会のほか、東京女子医科大学など3団体・1個人が大賞に輝き、5団体・1個人が優秀賞、1団体が特別賞を受賞した。

武相新聞

発行所
町田タイムズ社
郵便番号 194-0005
東京都町田市南町田4-24-20
編集発行人 山根栄子
電話 042(799)1100(代)
〈振替口座〉
00150-3-103219 武相新聞

— 緑豊かな英国調 —

ご宿泊・ご婚礼
ご宴会・出張料理
ボウリング
割烹千寿・茶里人家



ホテルラボール千寿閣
JR町田駅南口前(P150台)
TEL. 042(749)1121
<http://www.hotel-rs.co.jp>

竹清会 町田で初受賞

先進的な取り組み評価

女性職員が働きやすい環境づくりを推進したとして、町田市小山ヶ丘の社会福祉法人竹清会（矢沢きよみ理事長）がこのほど、東京都女性活躍推進大賞（医療・福祉分野）を受賞した。1月に都庁で行われた贈呈式で、矢沢理事長に小池百合子都知事から表彰状と記念盾が贈られた。都が2014年度から、女性の活躍推進に向けた先進的な取り組みをしている団体などを対象に実施、本年度は4団体と1個人が大賞を受賞した。町田市内から大賞を受けたのは竹清会が初めて。



東京都女性活躍推進大賞の受賞者ら（前列左から2人目が矢沢理事長、4人目が小池都知事）

竹清会は1999年に設立。特別養護老人ホームの美郷、花美郷（ともに小山ヶ丘）、居宅介護を支援するケアセンター美郷・森野ステーション（森野）、シニア世代に向けて脳の活性化や有酸素運動プログラムを提供する「いきいき倶楽部LIKE YOU」（同）などを運営している。正社員293人のうち、女性は232人。2025年問題（団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、65歳以上の人口が3割を超す超高齢化社会の到来による問題）に伴う介護人材不足に備え、09年から矢沢理事長

を中心に「女性が働きやすい環境づくり」をテーマにさまざまな取り組みを進めている。最も特徴的なのが食事しながら親睦を深めたり、自由に意見・提案を出し合ったりできる「女子会」の定期開催だ。提案の中から職員の生活状況や希望に応じた配置転換、産休・育休・有給休暇が取りやすい職場づくり、働きがいや働く目標達成への道しるべの明確化などを運営に反映している。

職場づくりでは、パートや非常勤からの正規雇用化で安心して働ける環境を整え、産休や育休な

どに関わる制度や手当についての研修会の実施、出産や育児などで長期休暇が予定される場合は他の職員の負担が増えないよう計画的な新規採用を行うなど、多面的なバックアップ体制も敷いた。その結果、14年度に0%だった出産後の就業継続率は、15年度以降100%を継続。離職率は14年度の14%から1%（17年9月末時点）へと大幅に減少した。

昨年3月には女子会での意見を基に、利用者が家族と一緒に最期の時間を過ごせる専用の看取（みと）り介護室を増設するなど「第2の経営会議」になっているという。

ルケースとなり、多くの方々に勇気とヒントを与えた。女性が輝けば男性も輝く、みんなが輝く、そして未来が輝く。女性の力をもっと生かすことが東京の発展、日本の将来にもつながると確信する」と祝辞を述べた。

矢沢理事長は今後の抱負として「母子家庭、ひとり親家庭をサポートする母子寮づくりを検討。施設は無休が基本で長期休暇の取得は難しいため、新しい仕組みづくりも考えていく。25年問題には、海外から技能実習生の受け入れなどをして備える」と述べ、「安全・安心な介護、質の高いサービスの向上を目指して、利用者が元気で笑顔で過ごせる終（つい）のすみかづくりを目指していく」と話した。

今年1月の贈呈式で、小池都知事は「皆さまは、さまざまな分野でいきいきと輝く女性のモデル」と話した。